

DNS Update

～ドメイン名全般～

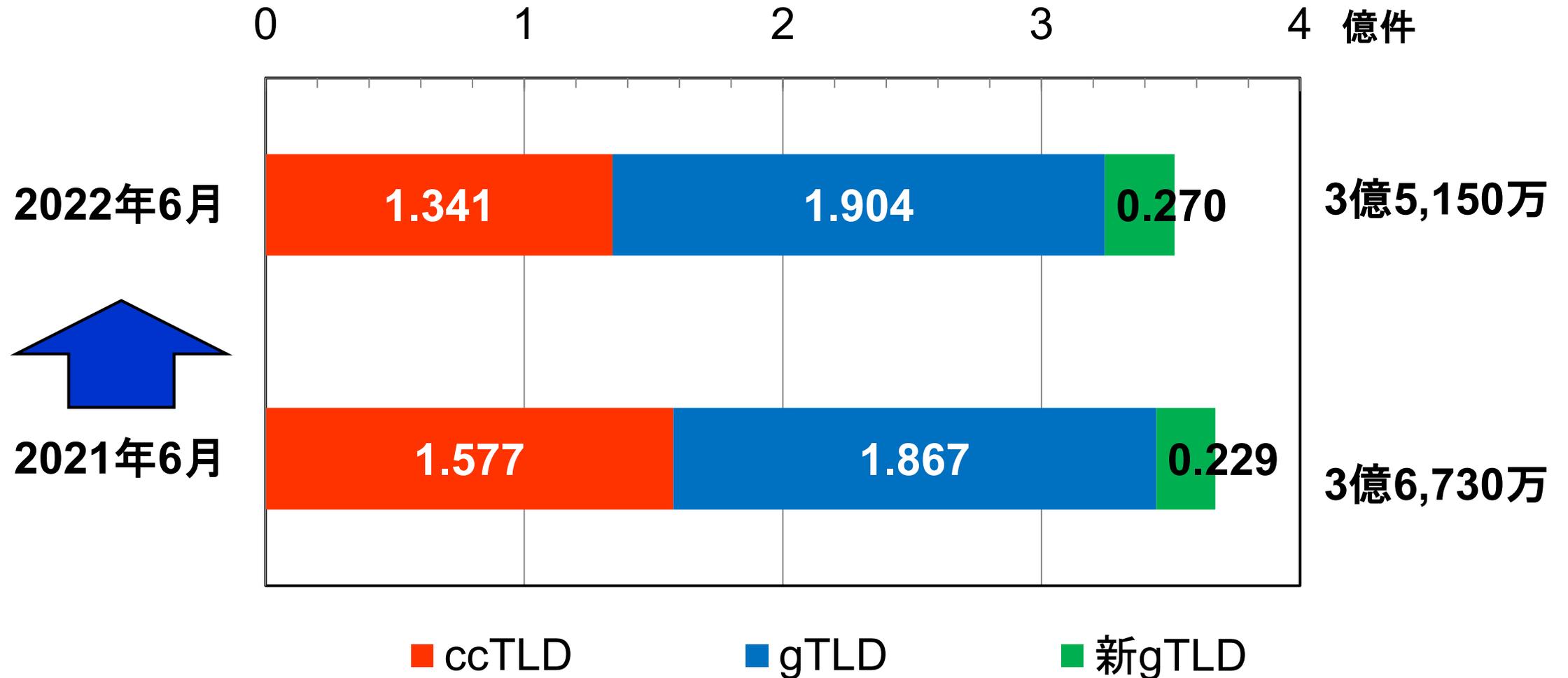
2022年11月29日(火)

Internet Week 2022 DNS DAY

高松百合(JPRS)

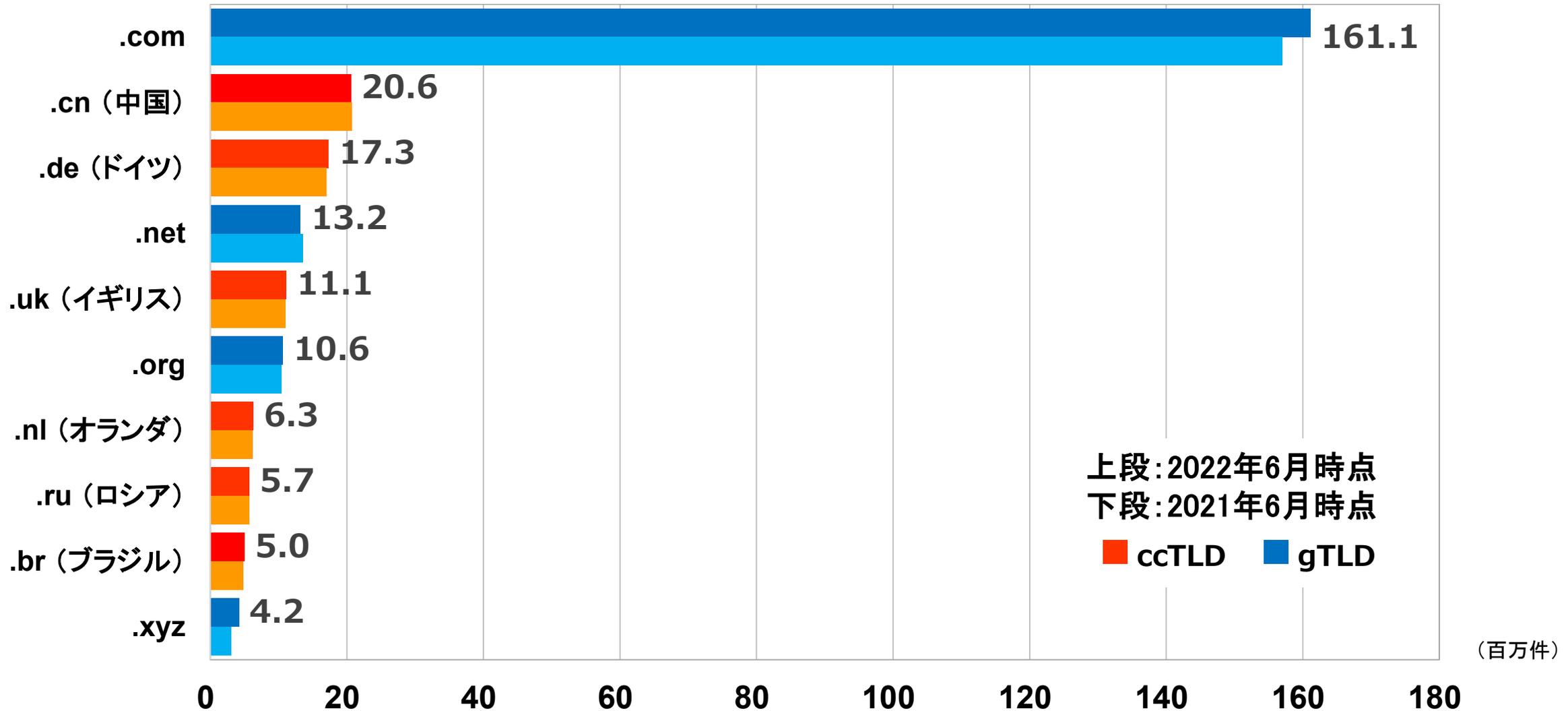
TLD全体の状況

全TLDでのドメイン名数



「Verisign Domain Name Industry Brief<https://www.verisign.com/en_US/domain-names/dnib/index.xhtml>」より

登録数の多いTLD



「Verisign Domain Name Industry Brief< https://www.verisign.com/en_US/domain-names/dnib/index.xhtml>」より

登録数の多いTLD

順位	TLD	件数(百万件)
1	.com	157.0
2	.tk(トケラウ)	24.7
3	.cn(中国)	20.7
4	.de(ドイツ)	17.0
5	.net	13.6
6	.uk(イギリス)	11.0
7	.org	10.4
8	.nl(オランダ)	6.3
9	.ru(ロシア)	5.7
10	.br(ブラジル)	4.8

2021年6月

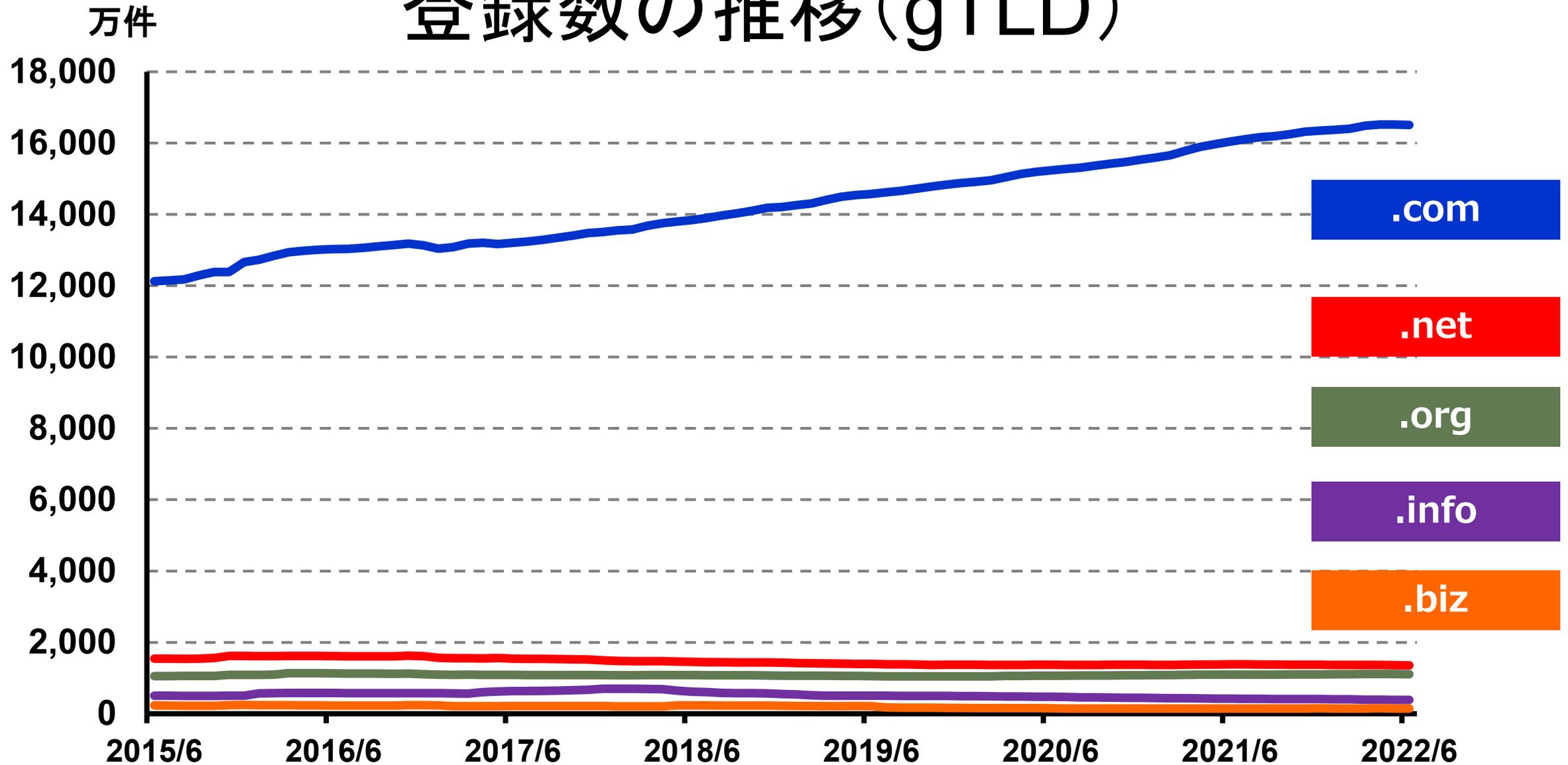


順位	TLD	件数(百万件)
1	.com	161.1
2	.cn(中国)	20.6
3	.de(ドイツ)	17.3
4	.net	13.2
5	.uk(イギリス)	11.1
6	.org	10.6
7	.nl(オランダ)	6.3
8	.ru(ロシア)	5.7
9	.br(ブラジル)	5.0
10	.xyz	4.2

2022年6月

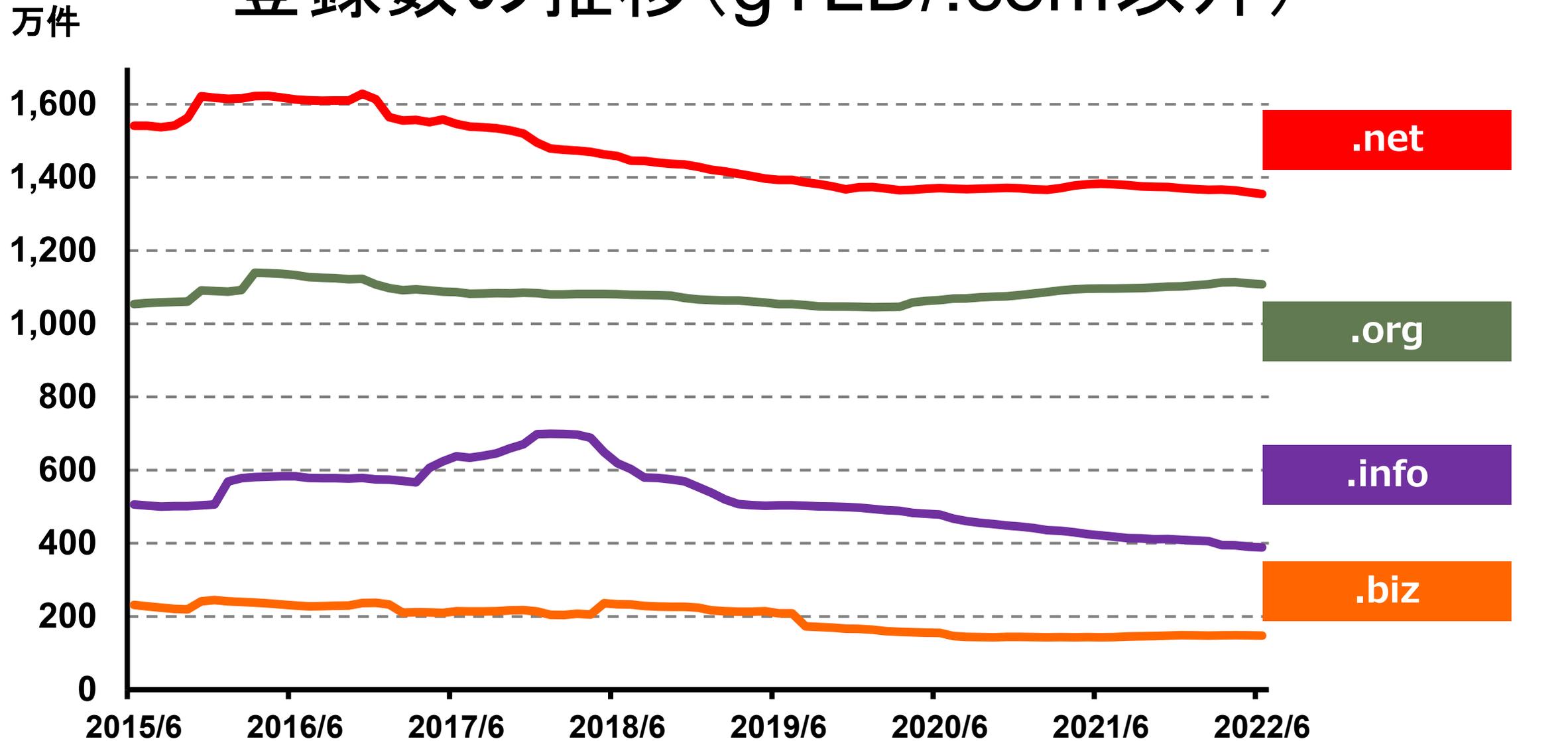
「Verisign Domain Name Industry Brief< https://www.verisign.com/en_US/domain-names/dnib/index.xhtml >」より

登録数の推移 (gTLD)



(ICANN発表値に基づく)

登録数の推移 (gTLD/.com以外)



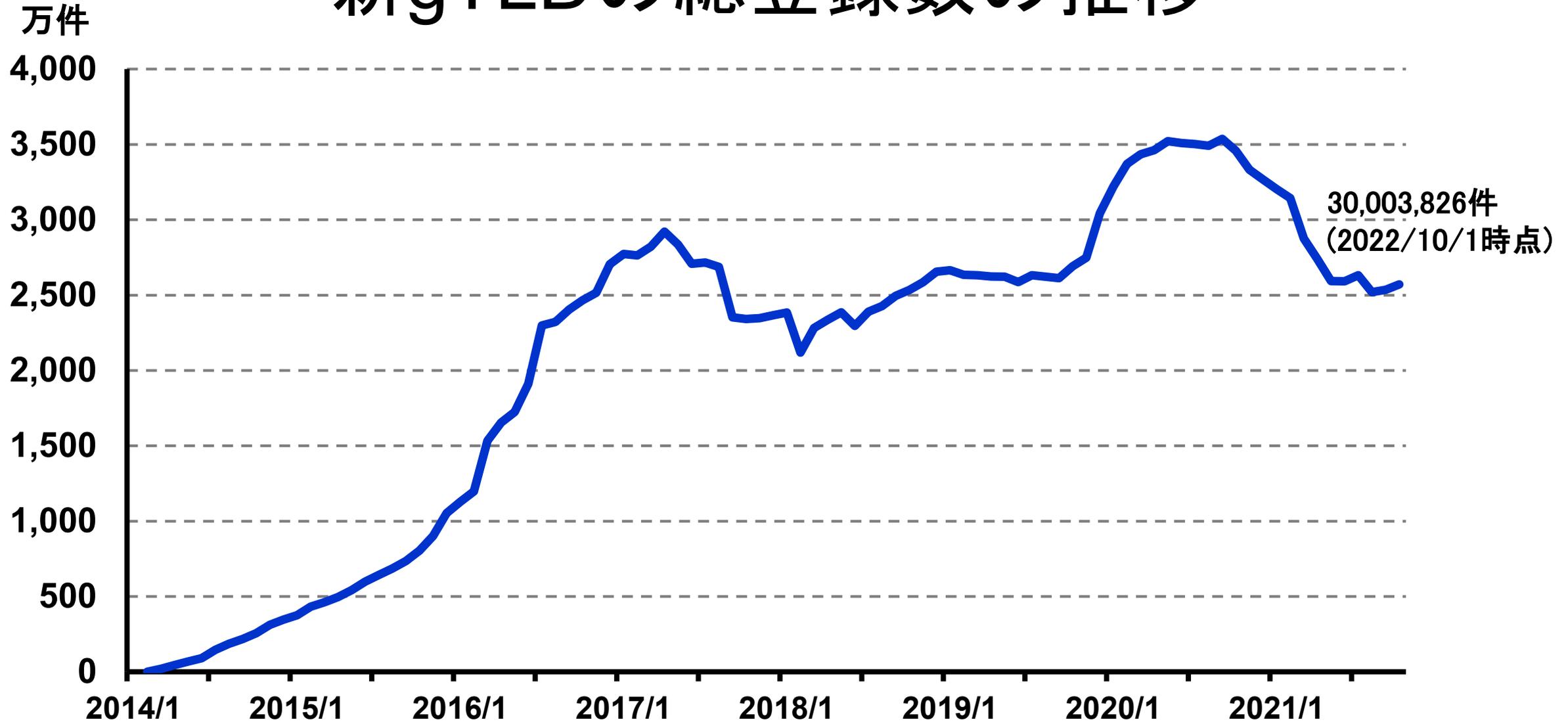
(ICANN発表値に基づく)

新gTLDの状況

新gTLDとは？

- ICANNはこれまでに、gTLDの追加募集を3回実施
 - 2000年の募集
 - .aero、.biz、.coop、.info、.museum、.name、.proが追加
 - 2003年の募集
 - .asia、.cat、.jobs、.mobi、.post、.tel、.travel、.xxxが追加
 - 2012年の募集
 - 追加数に上限を設けない形で実施され、1,200以上のgTLDが追加
- 2012年の募集で増えたものが「新gTLD」と呼ばれている
 - 2012年の追加募集の終了後、新gTLD次回募集 (Next Round of New gTLDs)に関する検討が、ICANNの場で進められている

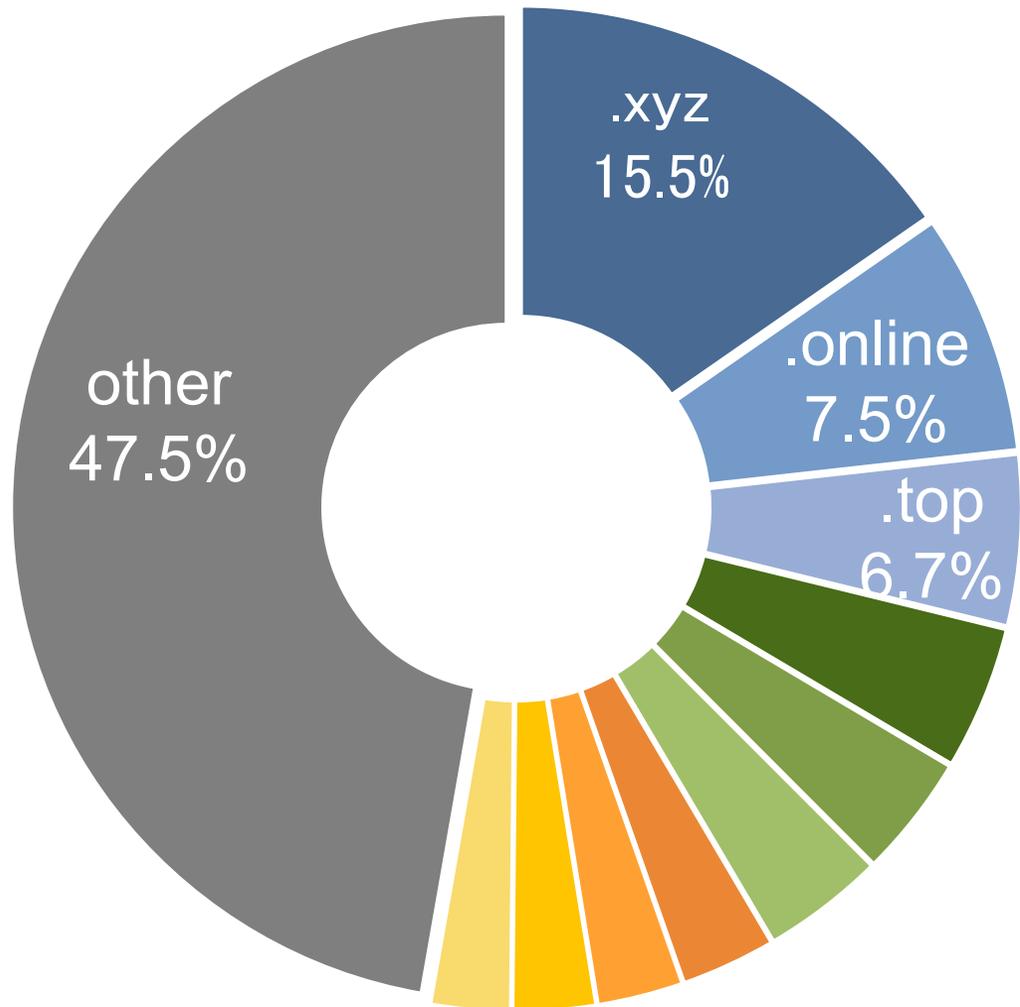
新gTLDの総登録数の推移



<<https://ntldstats.com/>> より

新gTLD登録数の内訳

(2022年11月23日現在)



	TLD	Domains	Share %
● 1.	.xyz	4,693,226	15.5%
● 2.	.online	2,269,880	7.5%
● 3.	.top	2,046,621	6.7%
● 4.	.shop	1,479,408	4.9%
● 5.	.site	1,246,349	4.1%
● 6.	.icu	1,039,780	3.4%
● 7.	.store	944,457	3.1%
● 8.	.cyou	812,475	2.7%
● 9.	.club	716,449	2.4%
● 10.	.live	692,951	2.3%

<<https://ntldstats.com/>>より

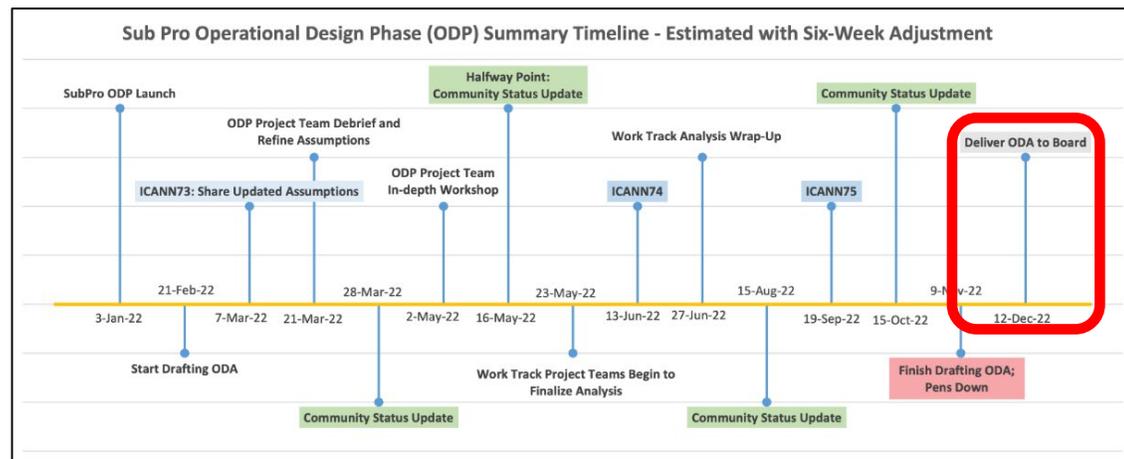
新gTLD次回募集開始に向けた動き

- ICANNでは新gTLD次回募集について、以下の6ステップを定めている
 - 現在、ICANN事務局がステップ3を実行中
 - 1. ICANN GNSO^{*1}におけるポリシーの策定
 - 2. ICANN理事会にて意思決定
 -  3. ICANN事務局における設計および実装の検討評価
 - 4. ICANN理事会にて採択の判断
 - 5. ICANN事務局がスケジュール・手順を公開
 - 6. gTLD次回募集の開始

*1 GNSO: ICANNの支持組織の一つ。gTLD関連のポリシー案を策定し、ICANN理事会に勧告する。

ODP (Operational Design Phase) とは？

- ICANNではステップ3の作業(設計・実装の検討)を、ODP (Operational Design Phase)と呼ぶ
 - 業務内容が大きく変化したり、大きな投資が発生したりする可能性があるため、必要な費用・人的リソースなどを含む、具体的な検討がICANN事務局で進められている
 - 結果は、2022年12月12日に理事会に送られる予定



引用元: ICANN <<https://www.icann.org/subpro-odp>>

今後の展望

- gTLD次回募集のスケジュール・手順の公開、募集の開始は、ODPの結果をICANN理事会が採択是非を判断した後になる見込み
- 追加募集は実施される見込みですが、具体的な募集時期は現時点で未定
 - 議論を追っている関係者の多くが、「早くて2024年」という観測をしている模様

その他トピックス

TLDの日本語ラベルのルールが確定

- ルートゾーンLGR (Label Generation Rules)とは
 - トップレベルドメインに利用できる、ラベルの文字列に関するルール
 - 次回新gTLD募集に向け、各言語コミュニティにおいてそれぞれの言語ルールを作成、定期的に統合されている

- 次回の新gTLD募集では、LGRに従ったラベルのみがTLDとして登録可能

example.TLD

ICANNがルールを作成

Root Zone Label Generation Rules

<<https://www.icann.org/resources/pages/root-zone-lgr-2015-06-21-en>>

- 日本語TLDラベルのルール

- 日本国内のコミュニティに対して、検討状況共有・意見募集を行ったうえで検討を完了
- 2022年5月26日に日本語LGRを含むルートゾーンLGRがICANNから公開された

参考: JPRS ではルートゾーンLGRと日本語LGRの概要をまとめた技術解説を公開
 - JPRS トピックス&コラム No.25 | トップレベルドメインのラベル生成ルール「ルートゾーンLGR」の概要
 <<https://jprs.jp/related-info/guide/topics-column/no25.html>>

日本語LGRの内容 (JPRS技術解説より)

– ルールの概要

- JIS第1水準、第2水準の平仮名・片仮名・漢字・一部の準漢字からなる6532文字とする
- 日本語独自の異体字を定義しないが、中国語用ルートゾーンLGRや韓国語用ルートゾーンLGRが定義する漢字の異体字を取り込む
- 視覚的類似文字に由来する異体字は、誤認発生が明らかなもの(右表を参照)のみ定義する
- 登録可能なTLDは申請されたラベルのみとし、異体字ラベルは登録できない
- 捨て仮名(「っ」「ォ」などの小さい仮名)・踊り字(「々」「ゞ」など)・長音記号(「ー」)はラベルの先頭に使えない

– 定義される12組の異体字

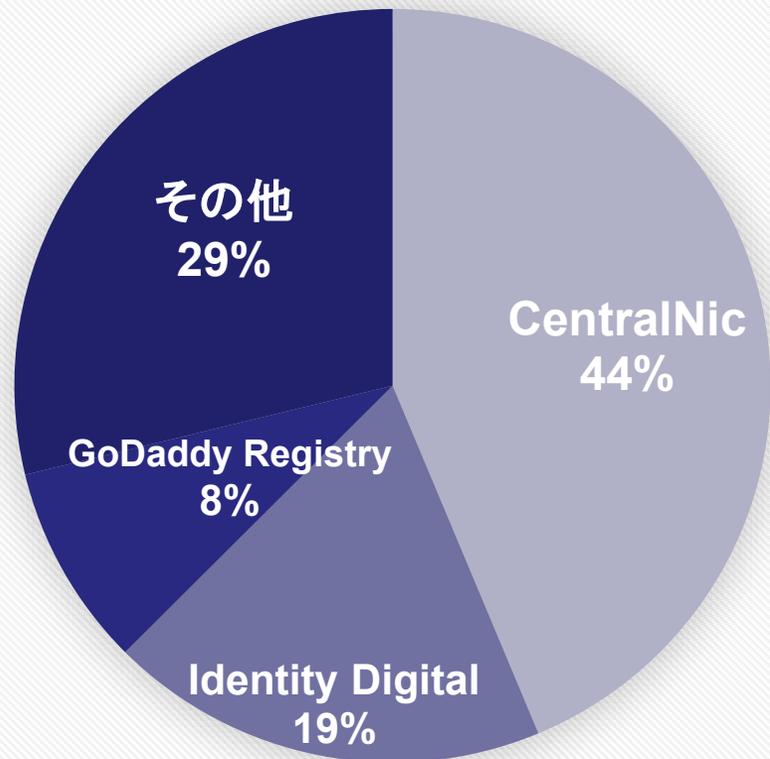
平仮名	片仮名	漢字
へ (U+3078)	へ (U+30D8)	
べ (U+3079)	べ (U+30D9)	
ぺ (U+307A)	ぺ (U+30DA)	
	ニ (U+30CB)	二 (U+4E8C)
	カ (U+30AB)	力 (U+529B)
	ハ (U+30CF)	八 (U+516B)
	ト (U+30C8)	卜 (U+535C)
	口 (U+30ED)	口 (U+53E3)
	夕 (U+30BF)	夕 (U+5915)
	エ (U+30A8)	工 (U+5DE5)

記号文字	漢字
ー (U+30FC)	一 (U+4E00)
ゝ (U+30FD)	丶 (U+4E36)

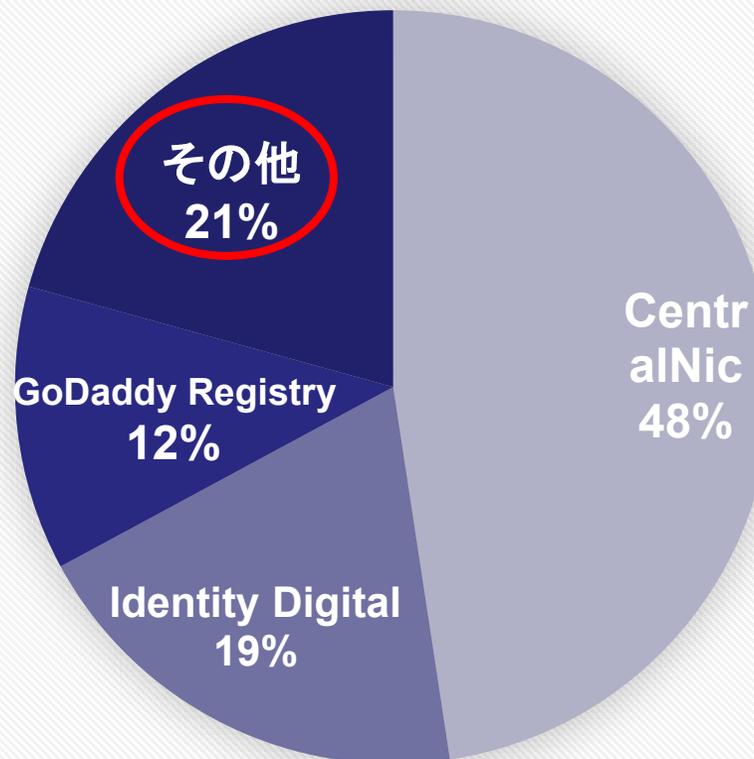
* カッコ内はUnicodeの文字固有番号

ビジネス動向

2021年8月



2022年9月



- レジストリ運用実務の集中化が継続
 - 新gTLD大手3社の登録数の、新gTLD登録総数に対するシェアが増加
 - Identity Digitalは旧Donuts
 - Donutsは多数の新gTLDのレジストリ
 - 2020年11月にAfiliasを買収し子会社化

Registry Backend Overview <<https://ntldstats.com/backend>>より

ロシアによるウクライナ侵攻から派生した動き

- 2022年2月28日、ウクライナの第一副首相兼デジタルトランスフォーメーション大臣がICANNに以下3点を書[*1]にて要請
 - 永久または一時的なロシアのccTLD (.ru , .su , .РФ)の廃止
 - これらのccTLDに対するSSL証明書の取り消しへの協力
 - ロシアに設置された2つのルートDNSサーバーのシャットダウン
- 2022年3月2日、ICANNのPresident and CEOが書簡[*2]にて回答(一部抜粋したものを仮訳)
 - 原則として、ICANNはインターネットが機能することを保証するために設立されたのであり、その調整役としての役割は、インターネットを止めることではない

[*1] <https://www.icann.org/en/system/files/correspondence/fedorov-to-marby-28feb22-en.pdf>

[*2] <https://www.icann.org/en/system/files/correspondence/marby-to-fedorov-02mar22-en.pdf>

jPRS